



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 — 学校という小さな社会 -後編-

(前号からのつづき)

甲本ヒロトの言葉、本当にその通りやと思う。友だちがおらんこと、できんことを気にせんでいい。それよりも学校生活の中には傷ついたり傷つけたり、辛いことがあったりして、嫌いな人や苦手な人だって現れて、そんなとき、自分はどうすればいいのか、何をすればいいのか、乗り越え方や感情の抑え方を学ぶことができる貴重な場なんやということを知っとってほしい。知らず知らずのうちに社会の中で自分らしく生きる方法を身に付けることができるはずやから。

やからと言って、何が何でも学校に行かんといけんよ！って言うとするわけじゃないからね。最優先すべきは"生きていること"。その次に心と体の健康。特に幼少期に言われた言葉やされたことは、大人になってもずっと残る。ずっと、ずっとその記憶が入れ墨みたいに消えずに残る。

自分と違う考えを持った友だちを受け入れて、人と違う自分を受け入れて、大人も子どももお互いを思いやってほしい。この世界にはいろんな人がいることを知ってほしい。そして、たとえ友だちができなくても、仲良くなれなかったとしても、それが普通なんやっていう気持ちで明るく過ごしてほしい。

(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.137



「冬の出会い」

桜の便りも聞かれるようになり、すっかり春めいてきた。海の春は、陸上よりも2カ月ほど遅くやってくるので、海の中は、まだまだ冬本番である。水温も15度近くまで下がり、カラフルな魚たちは姿を見せなくなる。水は透明になり、青く静かな世界が広がっている。そんな冬の海で出会えるのが、マトウダイだ。いつもは30mより深い場所に生息しているが、水温が下がると浅場にも顔を出すようになる。

その日、カワハギだと思って近づくと、大きなヒレを広げて威嚇してきた。大きいものになると50cmを越えるが、今回は12cm程の幼魚だ。シャッターチャンスとカメラを構えたとたん逃げだした。泳ぎが苦手な魚だが、魚は魚、なかなか追い付けない。カメラを構えたまま泳ぎ続け、息も絶え絶えになりながらも何とか



【マトウダイ (馬頭鯛)】

撮影できた。

ドライスーツを着込んで、防寒対策をしながらのダイビングだが、冬の海でしか出会うことのできない魚もいる。愛南の海は一年中楽しめる海だ。

(撮影地：瀬ノ浜)

愛南サンゴを守る会 ともてる 西尾知照